

入試に役立つ
小論文のポイント

小論文の準備・対策



Love God and Serve His People

聖学院大学

はじめに

この小冊子は高校生が入試において「小論文」の課題に取り組む場合のポイントをわかりやすく解説したものです。今、大学入試は大きく変わろうとしています。「教科ごとの知識を問う」今までの一般入試の形式から、受験生の「意欲・能力・適性等を多面的・総合的に問う」入試に変わりつつあります。推薦入試やAO入試で課せられる志望理由書や小論文は、そういう観点で行われる入試ですので、そのことをしっかりと理解した上で取り組まなければなりません。

聖学院大学では、単なる「作文」とは違い受験生の「考える力」を見るためのものとして「小論文」を位置づけています。これは本学だけでなく他の大学でも同じです。この小冊子に書かれている内容は新しい大学入試の全般に通じているのです。「文章を書く」ということはアウトプット（出力）であって、それまでの思考の過程を問われていると考えてください。

この小冊子は3部構成になっています。

第1部「小論文の書き方マニュアル」では、第1章「小論文の構成と流れ」、第2章「小論文作成テクニック」に分けて計10の項目についてそれぞれのポイントを説明しています。

第2部「小論文の書き方 実践例」では、聖学院大学の入試を例に、テーマの選び方や情報の集め方について具体的に詳しく説明しています。

また、第3部として「志望理由書」「自己推薦書」についても書き方アドバイスを掲載しました。

大学での学びは「考える力」を鍛えます。そして、その成果としてのレポート・プレゼンテーションが必ず求められます。これは高校までの学びと大きく違うところです。大学で学びは講義を聞くだけではなく、あなたの意見を求められます。「考える力」の基礎として「小論文」が位置づけられているのです。入試の段階からそれを身につけておくことは大学に入ってからかならず役に立ちます。

小論文は受験生にとってなかなかハードルの高い課題の一つです。しかし「小論文」には大学のこうした意図が込められていますので、ぜひこの小冊子を参考にして臆することなく小論文に取り組んでください。

この小冊子が、あなたの学びの参考になれば幸いです。健闘をお祈りいたします。

目 次

はじめに 01

第1部 小論文の書き方マニュアル

合格点が取れる小論文のポイント 04

【第1章】 小論文の構成と流れ 05

- 1 課題への対応の仕方 06
- 2 小論文構成の基本 08
- 3 サンドイッチ型小論文の書き方 10
- 4 思考の仕方、論証の仕方 12
- 5 主張の作り方 14

【第2章】 小論文作成テクニック 16

- 6 制限文字数内でのまとめ方 17
- 7 要約の仕方 18
- 8 説得力のある文章の書き方 20
- 9 体験談の扱い方 22
- 10 分かりやすい文章と表記
 - 小論文用文章表現のコツ 24
 - 表記のルール 26
 - 小論文も第一印象を大切に 28

第2部 小論文の書き方～具体例を踏まえて

■ テーマ・制限時間・制限文字数について 30

■ テーマ設定から書き始めまで 31

■ 練習用 原稿用紙 34

第3部 志望理由書・自己推薦書の書き方

■ 志望理由書の書き方 36

■ 自己推薦書の書き方 39

■ 「自分の強み発見」シート 40

■ 「高校生活で頑張ったこと」ワークシート 42

第 1 部

小論文の書き方

マニュアル

第 1 章 小論文の構成と流れ

第 2 章 小論文作成テクニック

合格点が取れる小論文のポイント

小論文には出題者が存在することを忘れずに

小論文はエッセイや日記と違い、自分が思ったことや出来事などをただ書けば良いというものではありません。テーマや時間、文字数といったルールが定められています。

また、読書感想文と異なり、小論文には「こういう答えを書いて欲しい」という意図を持った読み手（出題者）が存在します。いくら整った作文を書いても、出題者の意図に沿った答えが書かれていなければ、良い評価を受けることはできません。

以下、合格点が取れる小論文のポイントを簡単にまとめて紹介します。

	評価されるポイント	本冊子の参照ページ
1	何を書くべきか理解し、それに応えているか。 ①課題が何を要求しているのかを的確につかむ。 ②「自分がここで書きたいこと」ではなく、「ここで書くべきこと、書かなければならない内容」を正しく書く。	→ P.6 課題への対応の仕方 → P.31 テーマ設定から書き始めまで
2	「何を主張したいのか」がはっきりしているか。 ①この文章を通じて自分は何を主張したいのかを明確にし、それを最後までブレないように貫く。 ②主張が曖昧なまま文章を書き始めない。	→ P.8 小論文構成の基本 → P.14 主張の作り方
3	自分の主張を筋道立てて論理的に述べているか。 ①「起承転結」「結承転提」「三段論法」など、論理的で説得力のある文章展開をする。 ②「なぜそう思うか」「背後には何があるか」「例えばどういうことなのか」など、説得力のある‘裏付け’を加える。	→ P.8 小論文構成の基本 → P.12 思考の仕方、論証の仕方 → P.20 説得力のある文章の書き方 → P.22 体験談の扱い方
4	正しい文章で、ルールを守って書かれているか。 ①誤解を招かない、読みやすく分かりやすい文章で書く。 ②句読点や記号などが、原稿用紙使用のルールに沿って正しく、効果的に使う。 ③漢字を正しく使い、読みやすいいねいな文字で書く。	→ P.24 小論文用文章表現のコツ → P.26 表記のルール → P.28 小論文も第一印象を大切に
5	制限時間内に、指定文字数でまとめられているか。 ①小論文試験には時間と文字数に制限があることを知る。 ②「課題を理解する」「文章をまとめる」の時間配分をする。 ③「〇〇字以内」という指定された文字制限の中で、過不足なくまとめる。	→ P.10 サンドイッチ型小論文の書き方 → P.17 制限文字数内でのまとめ方 → P.18 要約の仕方 → P.30 テーマ・制限時間・制限文字数について

■P.31～33の「テーマ設定から書き始めまで」を参考にして、上記5つのポイントを意識しながら「合格点が取れる小論文」が書けるよう、練習を重ねましょう。

第1部 小論文の書き方マニュアル

第 1 章

小論文の 構成と流れ

論理的な展開と
明確な結論を目指して

1 課題への対応の仕方

ポイント

- 小論文のポイントを踏まえて書く。
- 問われていることに対する意見や考えを書く。
- 課題文はしっかり読み取る。
- 意見や考えの裏付けとなる情報を集める。

小論文は「小さな論理的文章」。出題者の意図に沿った答えを書くことが最大のポイントだ。

1 小論文のポイントを踏まえて書く

小論文とは、一般的には論理的文章のあまり長くないものを指す。大学入試に大幅に導入されている。今後は、思考力や表現力の測定を目的として、これまで以上に導入する大学が増えていくであろう。

一口に「小論文」といっても、色々な種類がある。それらのおおよそはつぎのようなものである。

- ①資料文の内容を要約するもの。
- ②資料文の、ある部分を解釈する。これは記述式問題の中にも見
うけられる。
- ③資料文（テーマ）について、自分の意見を述べる。
- ④資料文に関係した、あるいは単独で示された統計資料のグラフ
や表を読み取り、それをもとに、示された問題について考える。

→ P.18 「要約の仕方」

2 問われていることに対する 意見や考え方を書く

小論文では、課題として求められた事柄に対する意見や考えを組み立てて答える必要がある。しかも、その答えの正解は1つとは限らない。自分自身の意見や考えは各自自由で差支えない。しかし、問題として問われていることに対応する答でなくてはならない。

- (例) ①筆者はAという見方を紹介しているが、このAという意見に対して、あなたはどう考えるか。【紹介されたAという意見に対してどう考えるのかが求められている】。
②この文章で筆者が述べていることに対して、あなたの考えを述べなさい
【課題文全体の主張に対して、どう考えるのかが問われている】。

■読書感想文と異なり、小論文には「出題者」がいることが特色だ。出題者には「課題に対してこう答えて欲しい」と狙う「意図」がある。その「意図」を外さずに答えることがポイントだ。

3 課題文はしっかり読み取る

制限時間が気になるためか、課題文をいい加減に読む人がいる。課題文の内容を読み間違えてしまえば、その誤解をもとにして組み立てられた意見は、既に土台が歪んでいる意見となる。どんなに根拠をしっかりあげて書かれていても、課題文に正対していない文章では低い評価しか得られない。

⇒ P.30「制限時間の実例」
課題文を読み取る時間と解答文を書く時間の配分が大切だ。

4 意見や考えの裏付けとなる情報を集める

自分の意見や考えの裏付けとなる情報を課題文から集め、説得力のある文章を作る。その際、課題文からの情報（根拠）と、その情報をどのように解釈したか（理由）、それに基づいた自分の意見や考え（結論）を明示できるようにする。

- (例) 【根拠】課題文には「……」と書いてある。
- 【理由】「……」とは、～という意味である。
- 【結論】したがって、私は……だと考える。

●試験当日までの準備

自分の意見を補足する、新しくて正しく、しかも詳しい情報を、試験当日その場ですぐに活用できるような状態にしておくことが望ましい。

■課題が課題文に関するものである場合には、資料文中に自分の意見を引き出せるヒントとなる部分があるので、それを探す。

■小論文の課題や、テーマは様々なので、普段から新聞やニュースなどで視野を広げておくとよい。

■自分ならどう考えるかという視点で物事に接すると、必要な情報が見えてくる。

2 小論文構成の基本

ポイント

- 結論をはっきり決める。
- 結論を相手に伝えるための、文章の構成を決める。
- 構成は「段落」を使って示す。

「結論」が読み手に明確に伝わるように、文章構成の基本パターンを使って流れを組み立てる。

1 結論をはっきり決める

書き始める前に、結論として述べたいことをはっきり決める。決めた上で、念のために書き出してみるとよい。書き出したものを常に意識して、構成を決め、書いていく。結論を書きだしておけば、書いている間に結論が変化した場合でも、すぐ気づくことができる。そして、結論が変わった場合には、そこで一度書くのをやめ、構成から練り直す。論理的文章では、書き出しから最後までが論理的に一貫していかなければならない。

■ 結論をはっきり決めないまま書き始めるとか、書きながら考えるということのないように、最初から書きたい内容を明確にする。

2 結論を相手に伝えるための、文章の構成を決める

論理的文章とは、相手を納得させなければならない。そのためには、構造のしっかりととした文章にする必要がある。構造をしっかりとさせることは、構成をしっかりとさせて文章を書くことから始まる。ここでは、代表的な論理的文章の構成を紹介する。

■ 結論を「心臓」とすると、構成は「骨格」である。両方備わっていることが大切だ。

(1) 文章構成の基本パターン1 「三段落構成」

三段落構成が最も基本的な構成である。

- ① 序論（主題の提示、問題の提起）
- ② 本論（具体例の提示、考察、証明）
- ③ 結論（まとめ、主張）

■ 最初に序論として「～であろうか」「～だというのは適切（本当）だろうか」と問を示し、それを本論で考察・証明し、結論で序論で書いた問の答えを示す、というのが三段落構成の基本的な文章である。

最初に結論を述べ、最後にその結論を再提示してもよい。

(2) 文章構成の基本パターン2 「起承転結」

文章の組み立て方として、「起承転結」という方法もある。

- ① 【起】 前書きの後、「さて、……」と主題に入る。
- ② 【承】 「すなわち、……」と主題の内容を説明する。
- ③ 【転】 「ところで」と新たな角度や視点から主題を説明する。
反論を予想し、それに対する反駁をここに書いておくという方法もある。
- ④ 【結】 最後に「つまり……」と文章全体を締めくくる。

この「起承転結」は、漢詩の絶句の構成から取り入れられた方法で、長い間、文章の代表的な構成パターンとされてきたが、初心者には難しい面もある。

(3) 文章構成の基本パターン3 「結承転提」

読み手に対して結論をより明確にするために、結論を最初に置く「結承転提」というスタイルもある。

- ① 【結】 まず、主題について結論を示す。
- ② 【承】 結論に至った過程を説明する。
- ③ 【転】 主題についての他の資料を示し、結論が正しいことを証明する。
- ④ 【提】 結論から導かれる提案をする。

このスタイルでは、結論を書いてから、その根拠や理由を示す。結論が最初に書いてあるので、こちらの主張が読み手にとって分かりやすくなる。また、小論文の試験のように、時間を決められて文章を作るような場合、先に結論を書いてあるので、文章の途中であっても一応は論文の形式になっており、部分点はもらえる場合が多い。

3 構成は「段落」を使って示す

—— 段落は行の先頭を1マス空ける

段落とは、文章の中でまとまった内容をもつ一区切りを指す。段落ごとに行の先頭を1マス空けて、改行する。

- (例) 情報化社会について考えてみたい。
まず、携帯電話について考えよう。現在、誰でもが持っている携帯電話であるが、その役割として……

■反論を予想した上で、簡潔に反駁できるようにする。

(例) ところで、このように述べると、～ではないかという反論があるだろう。しかし、……

⇒ P.21 「反駁を予想する」

■結論を先に書くので、結論が明確になっていないと、特に「結承転提」の構成パターンは使えない。途中で結論が変わった場合には、全文書き直す。

■段落があることで、全体の構成や話の流れが見えやすくなる。

■段落の途中で別の内容を説明し始めることのないようにする。

3 サンドイッチ型小論文の書き方

ポイント

- 試験には制限時間がある。
- 結論を最初と最後に書くと、時間内にまとめやすい。
- 論証・考察は読む人が納得するように書く。

文章構成には様々な基本パターンがあるが、制限時間がある小論文入試では、説明が「尻切れトンボ」にならないように「サンドイッチ型」が有効だ。

1 試験には制限時間がある

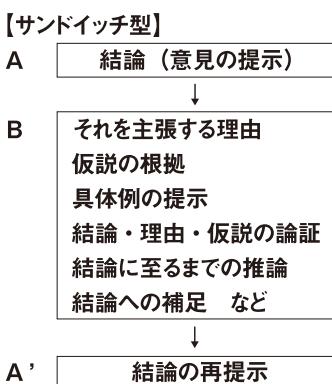
小論文入試では、制限時間が気になるものである。好きなだけ時間を使ってよいのなら、じっくり構想を練り、何度も書き換えていくことができる。しかし、制限時間があるのだから、そうはいかない。進め方が悪ければ、最後に結論を書く時間がなくなってしまった、ということも考えられる。そんな制限時間のある小論文テストでは、「サンドイッチ型」で構成するとよい。

2 結論を、最初と最後に書く

サンドイッチ型では、結論は、最初と最後に置き、結論についての論証や考察を中間部で行う。サンドイッチが「パンー具ーパン」となるように、「A（結論）－B（理由）－A'（結論の再提示）」とする構成である。

サンドイッチ型の構成は、簡潔で組み立てやすいので、構成に気を取られることなく、内容を充実させることができる。

- (例) A 「子どもにも携帯電話を持たせるべきである。」
B 「現代は情報社会であり、子どもの頃から情報を適切に活用するこ
とを学ぶ必要がある。」
A' 「したがって、子どもにも携帯電話を持たせるべきである。」



■サンドイッチ型は、「双括式（そうかつしき）」とも呼ばれる。

■聖学院大学の小論文入試では、制限時間は概ね60分である。
→ P.30 「テーマ・時間・字数の例」

■Aの悪い例

結論として、明確に言い切らないものは小論文としては適さない。

- × 「子どもに携帯電話を持たせることは、よい場合と悪い場合がある」
- × 「どちらがいいか、これからよく考えよう」

■Bの悪い例

結論の根拠や理由を簡潔に述べる。だらだらとあやふやな書き方をしない。

- × 「携帯電話は便利なものであり、持っていないければ友達ができない」
- × 「携帯電話には様々な色があり、形もかわいらしいものがある」

3 論証・考察は読む人が納得するように書く

Bの部分には、読む人が納得するように、これまでに集めた情報を具体例として入れたり、考察を加えながら論証したりする。

(例1) 携帯電話以外にも街中には様々な情報が飛び交っており、携帯電話を取り上げても、子どもたちをそれらの情報から隔離することはできない。

(例2) 平成20年3月、小学校及び中学校の新学習指導要領が告示され、教育の情報化について、情報教育及び教科指導でのICT活用の両面で様々な充実が図られている。子どもたちを情報化社会から隔離するのではなく、むしろ積極的に情報を活用する能力を育成することが今求められている。

■結論はBのことを踏まえて丁寧に書く。

(例) 以上の理由から、子どもたちにも携帯電話を持たせるべきだと考える。

4 思考の仕方、論証の仕方

ポイント

- 帰納法（個々の事例から普遍的なものへ）
- 演繹法（普遍的な原理法則から個々の事例へ）
- 三段論法（大小2つの前提から結論を導き出す）

論理的な要素や説得力を盛り込むための手法は大きく分けて3つある。いずれも「推論」だが、読み手を納得させる手法を身に付けよう。

きのうほう

1 帰納法

— 個々の事例から普遍的なものへ —

1つ1つの具体的な事柄や事実から、一般的な命題あるいは法則を導き出す方法である。簡単な例を示すと次のようなものになる。

(例) Aさんの庭でバラが咲いている。 …… 事例①
Bさんの庭でもバラが咲いている。 …… 事例②
Cさんの庭でもバラが咲いている。 …… 事例③
↓
今がバラの咲く季節だ。 ……………… 推論

具体的な事例が複数あれば、ある事柄について結論を導いたり推論したりするのに利用することができる。

(例) ① 全面禁煙の駅のホームで煙草を吸っている人がいた。
② 電車の入口をふさいでいる高校生のグループを見た。
③ 電車の中なのに携帯電話で話をしている人がいた。
↓
最近、駅や電車の中でマナーを守らない人が目立つ。

■帰納法や演繹法というのは、論理学（正しい判断・認識を得るために思考の形式や法則を研究する学問）から出たものである。ここでは、本格的な論証のためよりも、論理的な要素や説得力を盛り込むための手法・考え方という意味で扱っている。

■帰納法は「帰納的推論」とも呼ばれる。類似の事例を挙げて共通点を見つけ、そこから一般的な法則や原理を導き出す推論法のこと。

えんえきほう

2 演繹法

— 普遍的な原理法則から個々の事例へ —

誰でもが認めるであろう命題や原理・法則を示した上で、目の前にある個別の事例を説明する方法である。

(例) 東京の8月の平均気温は25度以上である。 …… 原理
↓
—昨年の8月の東京の平均気温は29度だった。 …… 事実①
昨年の8月の東京の平均気温は27度だった。 …… 事実②
今年の8月の東京の平均気温も25度以上だ。 …… 推論

■演繹法は「演繹的推論」とも呼ばれる。前提となる事柄をもとに、そこから確実に言える結論を導き出す推論法のこと。

このやり方は、前提となる考え方や結論をもとにして、様々な事実や事例について説得力をもって説明するのに利用できる。

(例) 近年は情報化社会だといわれている。



- ① 電子メールで世界中のひとと情報を交わすことができる。
- ② インターネットですぐに調べることができる。
- ③ 直接店に行かなくても、インターネットで注文することができる。

3 さんだんろんぽう 三段論法

—大小2つの前提から結論を導き出す

演繹法を用いた代表的な論証の仕方である。

(例) 人間 (A) は必ず死ぬ (B)。……………大前提 ($A = B$)

ソクラテス (C) は人間 (A) である。……小前提 ($C = A$)



だからソクラテス (C) は必ず死ぬ (B) ……結論 ($C = B$)

■演繹法は帰納法に比べ、相手に論破されにくいというメリットがある。

■実際の論理展開や思考法としては、帰納法・演繹法どちらかだけで進めるということは少ない。個々の事例から法則を導き出し(帰納法)、導き出した法則を個々の事例に当てはめて正しさを検証する(演繹法)というように、両者を合わせて用いていくことが多い。

■三段論法とは「推論」の方式の一つで、「大前提」と「小前提」から「結論」を導く法則のこと。

■帰納法・演繹法を応用した構成の仕方

帰納法の展開の仕方で文章を構成すると、最初に具体的な事例を挙げ、最後に結論を示すことになる。このような構成を「尾括法」という。それに対して、演繹法の展開で文章を構成すると、最初に結論を示し、その後でそれを論証することになる。このような構成を「頭括法」という。

■これらの思考法や論証の仕方を厳密に守ろうとするのではなく、文章の論理的な正確さを補強するための拠り所として、身に付けていくようにならう。

5 主張の作り方

ポイント

- 是非を求められた場合には、仮にどちらかに決める。
- 1つの項目を与えられた場合には、相対化させる。
- 最後は「人間を幸せにするか」で考える。

自分の意見や持論を他に認めさせるための「主張」は、小論文における「心臓部」である。小論文では持論を開発するだけでなく、課題に合わせ「主張を作る」ことがある。

課題を与えられたときに、予め自分なりの主張や結論を持っている場合には、すぐに構成を考えていくことができるだろう。しかし、あまり考えたことのない課題について、意見を書かなければならない場合もある。そのようなときには、次のような方法を試みてみよう。

1 是非を求められた場合には、仮にどちらかに決める

「○○の是非についてあなたの考えを書きなさい」というように、○○について是（肯定するか）非（否定するか）どちらかの立場から意見を述べることが求められる場合がある。このようなときにどちらの立場で書いたらよいのか、いつまでも迷っているばかりで書き始められない人が時折いる。このような課題では、是とする立場も非とする立場も両方成り立つ問題を取り上げることが多い。したがって、肯定する立場を取ろうとすればその欠点が浮かび、否定する立場を取ろうとしてもその欠点が浮かんでくるのはむしろ当然である。

そのような場合には、仮にどちらかの立場に決めてしまおう。そして、浮かんできた欠点を意識して、その対策を説明するつもりで書くとよい。どちらの立場を選んだかではなく、どのように自分の意見を論理的に説明できるかが重要なのである。

■たとえば、「小学生に携帯電話を持たせることの是非についてあなたの考えを述べなさい」というような書き方をした課題の場合である。

■一人の受験生が是非どちらの立場で書くかによって、明日からの歴史が変わるものではない。しかも、肯定否定、賛成反対どちらの意見も成り立つから未解決の課題になっているのである。そのような大きな問題について、簡単な解決法が短い制限時間の中で浮かぶはずがない。重要なのは論理的な展開である。そのように割り切ろう。

2 1つの項目を与えられた場合には、相対化させる

「○○についてあなたの考えを述べなさい」というように、色々な可能性のある課題の場合がある。しかも、与えられた「○○」についていくらあれこれ考へても何も浮かばない、あるいは浮かぶけれども抽象化してしまって結論をどのようにまとめたらよいのか分からなくなることがある。そのようなときには、全く別のものを1つあるいは2つあげ、それらとの関係で考えてみよう。

■ここでは、主張や意見を求める課題について論じている。知識について求められている課題には当てはまらないのは勿論である。たとえば、「情報化社会の弊害について書きなさい」という課題の場合、どのような弊害があるかを知っているかどうかがまず問われている。普段から、関心のある分野について情報を集めていることが必要である。

たとえば、「情報化社会」という課題について、「情報化社会とコンビニ」「情報化社会とアニメ」というように2つの関係にしたり、「情報化社会とコンビニと電車」「情報化社会とアニメと学校」というように3つの関係にしたりして考えるのである。そうすると、「世界中どこからでもインターネットで商品を注文し、コンビニで商品を受け取ることができる社会が実現している」「メールでのやり取りやアニメを見ることに夢中になり、学校の勉強が疎かになりがちだ」というような具体的な問題が浮かんでくる。これらを手がかりとして、「このようなことがあるので、情報化社会は～だ」という自分の主張・結論を作っていくことができる。

3 最後は「人間を幸せにするか」で考える

先の2つの方法でも何も浮かばない場合、結論をまとめることができない場合には、「課題として示された○○は人間を幸せにするか、それとも不幸にするか」という文型に当てはめて考えてみよう。

たとえば、「情報化社会の是非についてあなたの考えを述べなさい」「情報化社会についてあなたの考え方を述べなさい」という課題の場合なら、「情報化社会は人間を幸せにするか、それとも不幸にするか」というように考えていく。そうすれば、情報化社会によって人間が利益を得るところ、逆に情報化社会によって不利益を得るところがそれぞれ浮かんで来る。それらの具体的な事例から、全体としてはどちらが多いかをまとめてみよう。

■結論が難しい場合でも、「今後はAとなるかBとなるか、判断できないだろう」と逃げることはできない。小論文の文末は、必ず言い切らなければならない。

⇒ P.21 「③文末は言い切る」

第1部 小論文の書き方マニュアル

第 2 章

小論文作成 テクニック

伝わりやすく説得力ある
小論文を書くために

6 制限文字数内のまとめ方

ポイント

- 指定された制限文字数内にまとめる。
- 「何文字で何が書けるか」を予め把握しておく。

小説やエッセイなどと異なり、小論文には「〇〇文字以内にまとめなさい」といった制限文字数が指定されている。

1 指定された制限文字数内にまとめる

「～字以内」と指定されている場合、次のような基本ルールを守らなければならぬ。

- 基本ルール① その制限文字数をオーバーしてはいけない。つまり原稿用紙から1文字であってもはみ出してもはいけない。
- 基本ルール② 制限文字数「以内」なら何文字でも良いわけではなく、原稿用紙の行が余りすぎているとアウト。せめて8割以上（文字数によるが、できれば原稿用紙の最後から3行目まで）書こう。

⇒小論文の実際の制限文字数例はP.30 参照。

2 「何文字で何が書けるか」を予め把握しておく

試験会場でいきなり思いついた事をダラダラ書いていたのでは制限文字数内に収まらないし、書くべき材料が揃わないまま書き出したのでは余ってしまう。また、600字で書けることと、1200字で書けることは当然ながら大きく違う。これらの対策として、日頃から「何文字で何が書けるか、どれだけ書く必要があるか」を把握しておくことが大切だ。その手段として、新聞を読んで「何文字でどの程度の内容が盛り込めるのか」の感覚をつかむと良い。

- (例1) 新聞朝刊コラム …… 朝日新聞「天声人語」約 620 字
 読売新聞「編集手帳」約 500 字
 每日新聞「余禄」約 660 字

- (例2) 新聞朝刊「社説」… 1本の記事が約 1200 字

実際に原稿用紙に書き写す作業をして、「何文字でどの程度の内容が盛り込めるのか」を体感的につかんでおくと有効だ。ただし、新聞コラムには段落が無いので、400字詰めの原稿用紙に段落を入れて書き写すと原稿用紙2枚近くになることがある。

■指定された文字数に合わせ、「内容を無理矢理引き伸ばして何とか埋める」のでは、内容が薄いものになってしまう。書きたいことや情報がたくさんあるものをギュッと濃縮、つまり要約して書くことが望ましい。

■要約するといつても、情報を「あれもこれも」と詰め込み過ぎて文章だけ短くしたのでは読みにくいものになってしまう。盛り込む情報を取捨選択することが重要だ。

⇒「要約」のコツはP.18~19 参照。

7 要約の仕方

ポイント

- 制限文字数内にまとめるには要約が必要。
- 小説や評論文を要約する練習が有効。
- 要約には、まずキーワードを見つける。
- 要点を論理的な展開の順で並べる。

小論文を指定された制限文字数内にまとめる練習として、小説や評論文の要約が役に立つ。

1 小論文を制限文字数内にまとめるには要約が必要

P.17で紹介したように、小論文には「文字数制限」の指定があり、指定された文字数で小論文を完成させるためには「要約」が必要である。

要約とは文章の要点をまとめて、短く表現することであり、そのまとめたものを要約文という。

■書きたいことや情報をギュッと濃縮するのが「要約」だ。ただし、要約するといっても、情報を「あれもこれも」と詰め込み過ぎて文章だけ短くしたのでは、こま切れで読みにくいものになってしまう。盛り込む情報を思い切って取捨選択することが重要だ。

→ P.17 参照

2 小説や評論文の要約が練習になる

要約する力を向上させるためには、小説・物語や論説文・評論文が良い練習台になる。

小説・評論文などの要約文を書くためには、文章の大切なところ、筆者が主張したいところを読み取らなければならない。その上で、見つけた要点をまとめて、表現することが必要である。

また、小論文の課題に「資料文の内容を要約する」というものがある（→P.6 参照）。

小説や物語を要約する場合と、論説文や評論文などを要約する場合とでは、要約の仕方が異なる。

①小説や物語の要約

出来事の順に従って、まとめていく。あらすじと呼ばれるものになる。これは、全体を見ながら要約していくことになる。何が起きたか、誰が何を考えたかという点に注目し、その変わり目ごとに区切りながらまとめていくとよい。

②論説文・評論文の要約

結論や主張という、文章の中心となる部分を見つけ出し、組み立

■評論を要約するコツ

- ①繰り返し説明している部分は、重要なところである。
- ②繰り返して説明している部分は、その中から1つ選んで要約文に用いる。
- ③繰り返し使われている語句は、重要な（キーワード）ので要約文に用いる。
- ④カギになる文章は、段落の最初か最後に書かれていることが多い。
- ⑤重要語句や中心的な文章だと考える部分には、読みながら傍線を引く。
- ⑥問い合わせの文があったら、その回答になっている文を探す。キーセンテンスになっている場合が多い。
- ⑦要約文を書く前に要点をメモしてみる。

て直し、意味が分かるように書き直す。事例や具体例、具体的なデータや資料は、結論や主張を補足するものであるので、基本的には文章の中心となる部分ではない。ただ、文章によっては、幾つかの事例を説明することが目的となっている文章もある。その場合には、事例を説明している部分が「文章の中心となる部分」ということになる。

3 要約文を書く手順

①筆者の主張を捉える。

特に論説文や評論文には、文中に問の形で話題を示している文章がある。その場合には、答の部分が重要になる。

②段落ごとに主張の展開を追う。

この段落では論を展開しているのか、それとも具体例や事例を紹介しているのかをまず捉えよう。

③段落ごとの要点を抜き出す。

④捉えた要点を結論、根拠、結論再提示の順にまとめる。

課題文の構成を一度崩すことになるので、注意しよう。

⑤要約文にまとめる。

【例文】音楽を愛するとは、どのような人のことなのであろうか。自分の聞きたい音を出すために、楽器の練習をする人たちがいる。音楽愛好家を自称する人間の周辺で、騒音に悩む人たちがいる。好ましい音楽を奏でる権利を使用することは、周囲の人たちの、音楽を聴かないで過ごす権利を侵すことにも繋がる。その人の奏でる音楽のために、自然の風の音、落ち葉の舞う音や、小枝のこすれ合う音がかき消されてしまう。自然のかすかな音に耳を傾けずに、人口の音で空間を埋め尽くそうすることが、音楽を愛したことなのだろうか。逆に、野原で静かに耳を澄ます、そのような人の耳には、自然の奏でる美しい音が聞こえてくるであろう。そのような人の方が、音楽を愛する人とも言えるのである。



【要約文】

音楽を愛するとは、自然の音を搔き消すことではない。自然には、自然の奏でる美しい音が満ちている。したがって、音楽を愛するとは、自然の美しい音を愛する人とも言える。

■要約文を書く手順の例

- ①キーワードの抜き出し
「音楽を愛する」「音楽愛好家」「自然」
- ②結び付けるための語を利用する
「したがって」
- ③組み立て
結論—理由—結論

■聖学院大学日本文化学科のAO入試(レポート型)では、本の要約が課される。本の要約も、この手順が本全体に及ぶだけで、基本的な進め方は変わらない。

8

説得力のある文章の書き方

ポイント

- 客観性を持たせる。
- 簡潔な言葉で語る。
- 反駁を予想する。

小論文は日記と異なり、読者（採点者・出題者）が存在する。また、小説やエッセイのように「読んで楽しい」といったことが目的ではなく、読者に自分の考えを伝えて納得してもらうことが重要である。「納得」させるために、「説得力」のある文章を書こう。

1 客観性を持たせる

説得力のある文章の最も大切な条件は、その内容が客観的な裏付けを持っていることである。誰もが納得するデータや資料があれば、十分な説得力を持つことができる。普段から、特に興味関心のある分野について情報を集めておこう。

■たとえば、昨夜自分が見た夢の話は、話としては面白いかもしれないが、客観性を持たないために小論文には使えない。

2 簡潔な言葉で語る

できるだけ簡潔な表現をする。特に文学的な文章との差を意識しなければならない。十人十色という言葉があるが、それは、小説や詩などの文学的な文章には当てはまても、説明文や意見文、小論文では避けたいことである。誰が読んでも同じ内容を読み取る、十人一色を目指したい。

そのためには、次の点を特に気をつけるとよい。

①同じものには常に同じ単語を用いる。

たとえば、「情報化社会」という単語を用いたら、何度も同じ単語を用いる。文学的な文章のように言い換えることはしない。別の単語を用いると、別の内容を指すことになってしまう。

■説明文が十人十色では困ることは、機械のマニュアルを考えれば分かるだろう。マニュアルの理解が人によって異なっては操作ができない。

②比喩表現をしたら、その内容を具体的に示す。

たとえば「情報化社会は諸刃の剣である」とした場合、これだけでは情報化社会に両面があることが分かっても、どのような点が指摘されているのかは読者の想像に任されてしまう。「必要な情報を瞬時に得ることができるが、その一方で膨大な情報の中からどれを選べばよいのか分からずに情報に埋もれてしまうこともなる」と説明をすることで解釈を一つにすることができる。

■比喩表現を多用すると、その具体的な説明のために限られた文字数を費やしてしまう。比喩的表現は重要なポイントだけの使用に限ろう。

③文末は言い切る。

「そうであるのか、そうでないのか」が小論文では必要である。したがって、特に結論部分では「という気がしないでもない」「ということはないだろうか」「どのように考えられないこともない」等の表現の違いは問題とされないばかりか、読み手にとっては煩わしいだけである。小論文では、「～である」と言い切ろう。

■書き手の性格によっては「あまり強く言い過ぎることには抵抗がある」と感じることがあるかもしれないが、「言い切ることが小論文の鉄則」と割り切ろう。

3 反駁を予想する

自分の主張に対しての反論を予想し、その反論に対して説得していくつもりで書くとよい。

たとえば、「小学生に携帯電話を持たせることのは是非」という論題で、「小学生にも携帯電話を持たせるべきだ」ということを主張したい場合には、「携帯電話を持たせたときの不都合な点」を考え、それに対する「配慮・留意点」について最後に書き添えておく。

(例) ただし、小学生に携帯電話を持たせる限り、携帯電話を利用した犯罪に巻き込まれる危険性をゼロにすることはできない。その危険性の存在を十分に意識して、学校でも家庭でも子どもたちを常に見守り、互に情報を交換していく姿勢が必要である。

予防線を張りすぎないように

最後に付け加える場合には、あくまでも書き添えであるという意識をしっかりと持とう。結論を述べた後で、予想される反論について予防線をだらだらと述べていくと、結論がどこにあるのかが分からなくなる。長くなるなら、結論の前に置くとよい。

■最初から反論を予想して、その反論につづつ反駁していくつもりで論理を展開させてもよい。

(例) 小学生に携帯電話を持たせるというと、犯罪に巻き込まれる危険が増すという反論が出てきそうである。しかし、携帯電話だけが犯罪の情報を子どもたちにもたらすわけではない。

■両方の反論が次々に浮かんできて、自分がどちらの立場で書いたらよいのか分からなくなる人が時折いる。そのようなときには、とりあえずどちらかの立場に決めて構成を考え始めよう。どちらの立場を選ぶかではなく、選んだ立場で論理的に説得力のある文章を書けるかどうかが重要なのである。

9 体験談の扱い方

ポイント

- 体験談には客観性を持たせる。
- 論証には有効な情報提示を行う。

前項で述べたように、小論文には「説得力」が必要であり、体験談は具体的な事象として、入れることにより説得力を高める効果がある。ただし、取り扱いには注意が必要だ。

1 体験談は有効か

専門用語や抽象的な語彙を続けて用いていると、現実との関係が薄れているのに気づかない場合がある。そのようなときに、体験談が出てくると、抽象的世界から一気に具体的な事象を扱うことになり、論理的な展開が説得力を増す。

しかし、「私の体験では、……だった。だから、……」という体験談が必ず論証の助けになるというわけではない。なぜなら、一人の体験はそれだけでは客観性に乏しく、多くの人に理解され共感されることが少ないのである。

■たとえば、「高校生と部活動」という題で小論文を書いている中で、「夏の合宿で卒業生から冷たいジュースの差入れがあった」と書いても、それだけでは個人的な体験に過ぎず、その体験が日本の高校生全体に関わるものとはなっていない。

2 体験談に客観性を持たせる

個人的な体験を多くの人に理解され共感される、客観性をもったものにするためには、次の3種類の方法がある。

①原因を追究して分析する。

たとえば、「卒業生から冷たいジュースの差入れがあり、私はうれしくなった。」という体験を書く場合、なぜうれしくなったのか、その原因・理由を誰にでも分かるように明らかにする。「私がうれしく感じたのは、……して……だったから」「それまで……だったので、うれしく感じた」というように説明をすることで、客観性を持たせることができる。

■体験談は、自分だけが納得し、読者がついて行けずに置き去りになっていることがある。読者がイメージを共有できるよう、出来事を具体的に描写するように心がけよう。

②推論を進めて、体験を一般化する。

たとえば、部活動でうれしさを体験したことでの後の高校生活にどのように影響したかを説明することで、部活動の中で色々なうれしい体験をした人たちに共感を得ることができるようになる。また、高校生と部活動との関係について、多くの人に理解されることにも繋がっていく。

■体験談を書く前に、そこに用いる体験談が自分だけに起こった特殊な体験であるのか、どの人にも起こり得るものであるのかを確認しよう。

③体験を裏付ける客観的な情報を加える。

たとえば、日本の高校生の部活動加入率や歴史的な経緯、卒業生組織（同窓会や後援会）の組織の状況などの情報を加えることで、自分の個人的な部活動の体験を日本の高校生の部活動体験とどのように繋がっているのかを説明することができる。

3 論証に必要な体験談であるかどうかを確認する

小論文の中で論じていることと、ここで書こうとしている個人的な体験談とが本当に結びつくのかについて、書く前に確認しよう。

たとえば、飢餓地域救済の問題を扱っている中で、「これからは好き嫌いなく食べ、食べ物を粗末にしないようにしたい」と書いたらどうであろう。心がけは立派ではあるが、そのことによって、飢えている人々に食べ物が届くわけではなく、飢餓問題の解決にも繋がらない。たとえ日本人全員が好き嫌いなく食べるようになっても、同様である。飢餓地域救済の問題と、好き嫌いなく食べるかどうかということとは、直接には結びつかないからである。

■部活動の中でAさんと知り合い親友になったという体験の場合、Aさんはこの世に一人しかいないのでそのAさんと親友になったことは特殊な体験である。しかし、同じように部活動の中で生涯の親友と呼べる人の出会いを体験する人は多いだろう。その点に言及すれば自分個人の特殊な体験ではなくしていく。

4 体験談は必ずしも入れなくともよい

客観性を持たせることができない場合、論証に結びつけることができない場合には、無理に体験談を入れる必要はない。体験談は、あくまでも論証に現実との接点を持たせるための補助的なものであることを忘れないようにしよう。

■大切なことは、求められている課題が普遍的な問題を論じることなのか（「高校生と部活動」のような）、それとも自分を語ることなのか（「部活動の思い出」のような）をしっかりと区別することである。

⇒ P.6 「課題への対応の仕方」

5 自分を語ることが求められている場合には必要

「あなたの高校生活」「部活動の思い出」「高校時代のうれしかった思い出」というように、あなた自身を語ることを求められる課題である場合には、もちろん個人的な体験談は有効である。大いに活用しよう。

ポイント

- 文はできるだけ短くする。
- 自分でもよく分からない専門用語や難義語は使わない。
- 二重否定はしない。
- 体言止めは原則的に使わない。
- 日本語固有の呼応関係は乱さない。
- 「の」「が」を使用するときには注意する。

小論文は文芸作品ではない。小論文にふさわしい文章表現をしよう。

1 文はできるだけ短くする

文の最小単位は、「主語」+「述語」である。1つの文に複数の主語や述語があると、一読しただけでは意味を取りにくい文になる。できるだけ単純な構造の文にしよう。1つの文は60字から80字程度を目安として書くとよい。

■一文の文字数を短くした例。

(例)一般的に書かれる文の単位は、それが特別な翻訳の文章や文学的な文章でない限りは60字から80字程度とする。



一般的に書かれる文の単位は、60字から80字程度とする。ただし、特別な翻訳の文章や文学的な文章でない場合である。

2 自分でもよく分からない専門用語や難義語は使わない

難しい言葉を使ったからといって、それだけで評価がよくなるわけではない。むしろ、十分に理解していないために、誤用する危険が増え、全体として意味の取れない、あるいは矛盾した文章となってしまう危険がある。どうしてもその単語を使わなければならない場合（「『〇〇』という単語を用いて書け」という限定がついている場合など）は仕方ないが、基本的にはできるだけよく知っている言葉で書くように心がける。

■小論文を基にして面接試験が行われる場合、背伸びし過ぎた専門用語を使うと答えに困る。

3 二重否定はしない

二重否定の文は、文学的な文章では有効だが（「彼女を好きではないというわけではない」というように、微妙な心理状態を表すときなどに使用される）、論理的な文章では曖昧さや意味の取りにくさと受け取られるだけである。

(例)重要な点ではないというわけではない。



重要な点である。

4 体言止めは原則的に使わない

体言止めは、詩歌で文末を体言で終わらせることにより余情や詠嘆の気持ちを表したり、散文で簡潔に印象付けたりする技法である。しかし、論理的文章では、余情や詠嘆を込める必要もないし、特定の語を印象付ける必要もない。特に、体言止めを多用すると、論理が不明確になる。そのため、論理的文章では、見出しなど特別な場合を除いて、体言止めは使用しないように心がけるとよい。

■体言止め多用の例。

(例) 情報化社会。それは今直面している社会。そして考えなければならない問題。



情報化社会は今直面している社会であり、そこには、考えなければならない問題がある。

5 日本語固有の呼応関係は乱さない

日本語には呼応関係が決まっている表現が多数ある。その関係を乱さないようにする。

(例) この指摘は全然正しいと思われる。



この指摘は全然正しくないと思われる。

(あるいは) この指摘は大変正しいと思われる。

6 「の」「が」の使い過ぎに注意する

「の」も「が」も単語や句を繋げていくときに多用しがちである。便利な反面、論理的な繋がりがあやふやになり、多義的な解釈をされる表現にもなってしまう。

(例) 夏目漱石の本を読んだ。



(解釈1) 夏目漱石が書いた本を読んだ。

(解釈2) 夏目漱石について書いた本を読んだ。

(解釈3) 夏目漱石がかつて所蔵していた本を読んだ。

「の」を使わずに、いずれかで書いた方がよい。

■「が」を多用した例。

(例) 以上の指摘があるが、一部で報じられているところであるが、いまだ明確に結論が出ているわけではない。



以上の指摘がある。しかし、一部で報じられているように、いまだ明確に結論が出ているわけではない。

ポイント

- 句読点や符号を効果的に使う。
- 横書きでも数字を使った熟語は漢数字を使う。
- 同音異義語・同訓異義語は辞書で確認する。

原稿用紙の使い方の中でも、特に句読点（くとうてん）や符号は文章を分かりやすくするために付けるもの。ルールを守って、上手に使いこなそう。

1 句読点

句読点は行頭（行の最初）には付けない。

■句点「。」

1つの文の区切りに付ける。文中に括弧（かっこ）を使うときは、括弧の後に付ける。

■読点「、」

- ①主語の後に付ける。
 - ②文頭に接続詞がある場合にはその後に付ける。
 - ③読点がないと誤解される場合に付ける。
 - ④仮名や漢字が続いて読み間違いをしそうな場合に付ける。
- (例) ①高校時代は、私にとって重要な3年間であった。
 ②ところが、大会直前に負傷してしまった。
 ③私は、弟と妹の学校を訪れた。
 私は弟と、妹の学校を訪れた。
 ④このようなときには、のんびりとするものだ。
 現在、所属している〇〇委員会では……

■文末で「……」を使ったときには、句点はその後に付ける。
 (例) なるほど……。

■適切に付けられた読点は、文章のリズムを整え読みやすくする、つまり読者がストレスを感じることなく読み続けられるという効果を生む。リズムを整える読点の入れる場所は難しい。分かりやすい例として、声に出して読んでみて(試験会場では声に出して読むイメージで)、息継ぎがしたくなつた場所が適切だ。

2 符号(代表的なもの)

■中点あるいは中黒（なかぐろ）「・」

名詞が並列する場合。

(例) 音楽・美術・書道 ×明るい・熱い

■かぎ括弧「」

会話や引用を示す。強調する場合にも使う。

(例) 本の中に「志を高く保つ」という言葉があった。

■二重かぎ括弧『 』

書名や雑誌名を表す場合に使う。

(例) 『日本の小説百年』という本を読んだ。

■点線「……」

表現の省略に使う。点を6つ繋げて、2文字分使う。

(例) 努力したが…… ×努力したが…

■二重かぎ括弧は会話文の中に別の会話文を入れる場合にも使う。

(例) 兄は私に「先生が『勉強をがんばっているね』と褒めていたよ」と教えてくれた。

3 数字・アルファベット

■数字 縦書きの場合には、原則的に漢数字を使う。横書きの場合は、算用数字を使う。算用数字を2つ以上並べる場合（2ヶタ以上の数字を示す場合）は半カクとする。原稿用紙なら、1マスに2個入れる。

①固有名詞や熟語は横書きであっても漢数字を使う。

(例) 四国 ×4国 ただし、4つの国という場合は可。

一石二鳥 ×1石2鳥

②概数（おおよその数）を示す場合には、数・何・約・前後などを使う。

(例) 十数人、十何人、約100人、500人前後

■アルファベット(記号)

横書きの場合、大文字は1マスに1文字、小文字は1マスに2文字を入れる。ただし、略称など、大文字が続く言葉は1マスに1文字ずつ書くとよい。

■数を増やしたり減らしたりできる場合には、横書きでは算用数字を使うことができる。

(例) ○2倍3倍

■原稿用紙の使い方

(例) 100m 10km 0.01% PTA

横書きの場合

10	0	m		10	km		
0.	01	%		P	T	A	

縦書きの場合

百	十	一	○	□	P
×	k	○	・	□	T
I	m	k	○	□	A
ト		m	—	□	
ル			%	□	

4 同音異義語・同訓異義語に注意する。

ワープロで文章を作ることに慣れてしまうと、簡単に漢字に変換できるために思わぬ間違いをすることがある。できるだけ辞書で確認しよう。

(例 1) 追求（目的を達するまで追い求める）

追究（学問などを尋ねきわめる）

追及（責任などを追い責める）

■三文字の熟語の漢字は注意する。

×週間誌（○週刊誌）

×不可決（○不可欠）

(例 2) 変える（状態や形をかえる）

代える（あるものに他のものと同じ役目をさせる）

換える（それに匹敵する他のものと取り換える）

5 引用

引用文は2マス下げて書き、自分の文章と区別する。

ポイント

- タイトル・氏名はていねいに書く。
- 本文も読みやすい字で。
- 漢字は正しく、できるかぎり使う。

小論文も面接試験同様に「第一印象」が重要だ。「第一印象」とは「読みたくなるかどうか」である。一見して読む気を失うようなものは、内容の善し悪しに関わらず最初にマイナスイメージを与えることになる。

1 タイトル・氏名はていねいに書く

タイトルや氏名欄は、まず最初に読み手（採点官）の目に触れる大切な「看板」である。にもかかわらず「内容に関係ないから」と乱雑に書いたり、見えないほど小さな字や薄い筆記具で書いたりする受験生が少なくない。原稿用紙のマス目の中にバランス良く明瞭に、堂々と書こう。

■氏名を書く際は、「姓」と「名」の間を1マス空けて書く。姓や名が1文字の場合は、2マス空けるとバランスが良い。ただし、姓か名の一方が1文字で一方が3文字以上の場合は、1マス空きで良い。

2 本文も読みやすい字で

名前やタイトルもそうだが、本文の字が乱雑であれば内容も乱雑な印象を与えててしまう。また文字が小さかったり薄かったりすると、論拠が弱く説得力に欠けるような印象になるため、評価はマイナスになりやすい。

かといって、美しい文字や達筆でなければダメという訳ではない。大切なのは「読み手が存在する」ことを意識すること。「読んでもらいたい」という気持ちを込めて、ていねいに書くことを心がけよう。

■鉛筆やシャープペンシルは、HB以上の濃い目のものを使うと読みやすい。

3 漢字は正しく、できるかぎり使う

誤字・脱字が多いと、小論文の内容の信頼性を失い、説得力が無くなる。日頃の学習を怠らず、漢字は正しく書こう。

また、漢字が多く用されていると文面が黒っぽく引き締まって見える。娯楽系の読み物の印刷物ではわざと漢字を少なくて、文面を白っぽく、つまり軽いイメージにする技法もある。しかし、小論文には論理的展開や正確性といった、ある意味「威厳」が求められるので、できるだけ漢字を多用する方が印象は良い。

■どうしても漢字が思い出せない場合は、無理して間違った漢字を書くよりも平仮名で書いた方がまだケガが少ない。間違った漢字は違う意味になるので、誤解を与える危険がある。

第2部

小論文の書き方

[具体例を踏まえて]

- テーマ・制限時間・制限文字数について
- テーマ設定から書き始めまで
- 練習用 原稿用紙

テーマ・制限時間・ 制限文字数について

1. 時間・文字数を意識しながら、実際に書く練習を始めよう

小論文試験には、必ず制限時間があります。そして、ほとんどの小論文には「〇〇文字以内」という制限文字数の指定があります。論理的な展開や説得力のある文章など内容面はもちろん大切ですが、その内容を「制限時間内に、指定された制限文字数内でまとめる」という作業が必要なのです。これをクリアするためには、やはり練習を重ねるしかありません。

この「第3部」では、小論文を書くために行う「テーマ設定から書き始めるまで」の作業について、その手順を解説しています。題材として、聖学院大学の入試で過去に出題された実例を挙げています。この説明を参考にして、小論文を書く練習を進めてください。

その際、常に「制限時間内に、指定された制限文字数内でまとめる」ことを意識しておくと、実際の試験会場で慌てることが少なくなるでしょう。以下、聖学院大学の入試における時間・文字数を例に挙げました。大学によっては「90分、1200字」といったボリュームのある出題もあり、テーマや求められる答えの出し方も様々ですが、時間・文字数の目安にしてください。

■小論文のテーマ・時間・文字数例（聖学院大学 過去問題集から抜粋）

テーマ（概要）	入試 (出題年度)	時間	文字数
夏目漱石『夢十夜 第六夜』全文を読み、最後の一文に込められた作者の意図を説明する。	秋学期入試 (2014)	60分	800字以内
日本農業新聞の記事を読み、野生生物と人間の生活の共存について自分の意見を述べる。	公募推薦入試 (2015)	60分	800字以内
幼稚園での出来事が書かれた一文から、自分が学び得た「大切な指導」について述べる。	公募推薦入試 (児童学科・2015)	60分	800字以内
新聞コラムを読み、住民が地元商店街を救うためには誰がどうしたら良いか、自分の考えを述べる。	自己推薦入試 (2015)	60分	600字以内
朝日新聞・天声人語「ネット情報の怖さ」を読み、ネット情報との関わり方について自分の意見を述べる。	秋学期入試 (2013)	60分	800字以内
講演録「学校・宗教・スポーツで培われるタテの軸」を読み、筆者の考え方に対する反対論・賛成論を展開する。	公募推薦入試 (2014)	60分	800字以内
スポーツ誌の記事を読み、スポーツを通じて得られる仲間・先生との絆・信頼について、体験を交えて述べる。	スポーツ推薦 (I期・2014)	60分	600字以内

※制限文字数に関しては、P.17を参照してください

テーマ設定から 書き始めまで

ここでは、テーマを決めて書き始めまでを、テレビと新聞から情報を得る形式で説明します。テーマを決定するといっても、自由にテーマを決定できる自由論題ばかりではなく、・・・について800字で書きなさい、という形式も多いです。そこで、まず、テーマが決定されている場合についてどう小論文を書くのかを説明します。

1. テーマが決定されている場合

皆さんも身近に知っている「マクドナルドの異物混入問題」というテーマを例にしてみます。「マクドナルドの異物混入問題について、800字でレポートを書いて提出しなさい」という課題の場合です。

- 1) まず、ネットで内容を確認します。ネットで検索するときに大切なのは、キーワードの選択です。マクドナルドで検索すると約22,200,000件、異物混入問題で検索すると約623,000件、両方とも膨大です。そこで「マクドナルド 異物混入問題」と二つのキーワードで検索してみても約409,000件と絶望的ですが、グーグル検索は重要情報から並べてくれますから上位15を確認しましょう。すると、異物混入問題の前に食品消費期限切れ問題があることに気がつきます。事件です。事件には起きた日時がとても大切です。

「食品消費期限切れ問題（しょくひんじょうひきげんぎれもんだい）」とは2014年7月に発覚した、米食材卸大手、OSIグループ傘下にある中国上海の中国法人「上海福喜食品」の製造卸した食肉が消費期限切れであったという問題」（ウイキペディア）^{*1}とありますから、2014年7月のことだと分かります。どのホームページで調べたのかということも大切なことで、出典は（ウイキペディア）と必ず書きます。新聞・雑誌記事の場合は、（http://toyokeizai.net/articles/-/57467）と表記します。

※1 本例は政治経済学科の出題例です。学科によっては参考方法、参照先に指定のある場合があります。

-
- 2) 内容が確認できたら、次は感想です。食品業界として異物混入問題は深刻です。ほかにもあったなあと、思い浮かべば成功です。マクドナルドの問題ですが、マクドナルドだけの問題ではありません。たとえば、まるか食品の主力商品「ペヤングソースやきそば」ではゴキブリが混入していたとして、製品の回収・製造中止と言うことで数十億円の損失が出ています。ですが、徹底した対応で無事販売を開始できました。

同じ食品を扱う企業でも対応が違い、世間の評価も違います。どちらが正しいのでしょうか。あなたはどう思いますか、と展開していきます。

-
- 3) まとめです。テーマが設定されていたらまずネットで内容を確認しましょう。時事的な問題であれば、いつ起きたのか日付がとても大切になりますし、情報源のホームページも表記しておく必要があります。できれば、いくつかの事件を比較しましょう。比較することで問題点が明確になり、説明しやすくなります。

2. 自由論題の場合

1) 適切なテーマを選択しよう

自由論題は自分でテーマを決定できるので簡単なようですが、逆に適切なテーマを選択しないと混乱します。では、具体的にどのようにテーマを選べば良いのかを説明します。

聖学院大学で選択された自由論題で説明します。

- アメリカ政治から学ぶべきこと
- ワーキング・プアについて
- ハイブリッド車への転換理由
- 新撰組の歴史
- ガソリンの価格変動について
- 浦和レッズが地域活性化に与えた影響
- 犯罪の増加と裁判員制度について -自分が選ばれたら-
- 我が国資本主義形成における渋沢栄一の功績
- 駒西町の環境問題とその取り組みについて
- イタリアと日本の食文化

まず、選択したくないのは、この二つです。

- アメリカ政治から学ぶべきこと
- イタリアと日本の食文化

二つとも漠然としていて書く範囲が曖昧です。両方とも、本格的に書こうとしたら電話帳のような書物になります。二千字程度の小論文では不適切な内容です。避けましょう。

逆に推薦できるのが、この二つです。

- 浦和レッズが地域活性化に与えた影響
- 駒西町の環境問題とその取り組みについて

テーマが自由に選べるのであれば身近な、そして関心のあるものを選択しましょう。「浦和レッズ」のファンであれば、すでにそういう知識があるはずです。ですが、ここでのポイントは「地域活性化」です。強弱とか有名選手の活躍だけではありません。地域活性化とは何か、周囲の飲食店もそうでしょうし、グラウンドに駆けつけるための交通費も計算できます。でも、楽しくやれそうです。「駒西町の環境問題」もおそらく地元自治体のことでしょう。身近なテーマで具体的です。調べやすいし、考えやすいです。そんなテーマを選びましょう。

2) テーマ選択のための情報収集

自由にテーマが決められる場合、逆にテーマの決定に悩みます。ここでは、私たちの身近な情報源であるテレビと新聞からテーマを決定する方法を学びます。

①テレビ報道からテーマを選択する

テレビは映像を伴いますから、情報量は多くテーマ決定には最適のようですが、問題があります。それは、一過性と言うことです。録画でもしていないと、見て終わりで内容を確認するのは難しいのです。情報を探るアンテナとしての機能は期待できますが、小論文作成の素材にするのは困難ですが、秘策があります。それは、番組によっては内容を丁寧にホーム

ページにアップしている場合です。一番良い例は、NHKの看板番組「クローズアップ現代」です。確認してみましょう。

2015年6月10日（水）放送のテーマは、「水族館からイルカが消える!?～国際批判に揺れる現場～」では、内容をすべてテキストにして表示してくれますから、確認するには最適です。「世界では、そもそもイルカの展示を取りやめる動きも広がっています。」という説明があります。こうなると動物愛護とは何なのか、という深刻な問題になってきます。小論文のテーマも見つけやすくなります。例えば、イルカを水族館で飼うのは動物虐待になるのでしょうか、ということになります。

他には、テレビ東京の「ガイアの夜明け」「カンブリア宮殿」などもテーマ選択に使えます。番組の内容もバックナンバーとして説明しています。

②新聞・雑誌記事からテーマを選択する

新聞・雑誌記事から小論文のテーマを見つけるのは王道ですが、あまりに量が多くどれを選んでいいのか混乱します。使うのは見出します。見出いでテーマを選択します。見出しへ、その記事を執筆した記者ではなく通常編集委員というベテランが担当します。経験豊富で文章力のある人が担当しますから、とても分かりやすいものが見出しえなります。2015年6月19日の日本経済新聞に「30都道府県で20日に過労死電話相談 弁護士らの全国ネット」という見出しの記事があります。ここでのポイントは、「過労死電話相談」です。記事には「弁護士らでつくる「過労死110番全国ネットワーク」は20日、過労死や過労自殺、パワハラに関する電話相談を30都道府県に窓口を設けて実施する。」とあります。この記事が気になら、小論文のテーマは「過労死電話相談について」となります。どんな相談が来るのか、本当に死にそうだという人が電話してくるのか、まず調べましょう。

次に、あなたの意見です。死ぬほど働くっておかしくないですが、そんなことは自分で守ることで、電話で相談すべきではないでしょうと考えますか、それとも、過労で死ぬことを心配するほど追い詰める職場が悪いのでしょうか、まず、見出いで関心を持ったら、その内容について調べて感想を書く、それで小論文は完成です。

練習用原稿用紙が付いています

次ページに小論文練習用の原稿用紙（25字×36行＝900字）の見本を掲載しました。もし文字数制限が「900字」と指定されたら、それがどのくらいの分量なのかを目で確かめ、感覚をつかんでおくだけでも役に立ちます。つまり、「どのくらいの内容を書き込まなければいけないのか」、そして「書くべきことをまとめるためには、どのくらいのボリュームでまとめなければならないのか」という感覚です。

また、本冊子には実際の寸法の原稿用紙（900字）も挟み込みました。実際にこれを利用して練習してみてください。もっと書きたかったら、34ページの見本をA3判に拡大コピーして使ってください。

実際に書いてみることが、小論文の実力アップの特効薬になります。

聖学院大学小論文

原稿用紙

教科名		学部名	学部	クラス	
第[]講	学科名		学科	氏名	

タイトル

100

200

300

400

500

600

700

800

900

◎コメント

評価	A B C D
Good	

入試に役立つ小論文のポイント [小論文の準備・対策]

2015年9月12日 第1刷

2017年7月18日 第9刷

執筆・編集 聖学院大学

第1部 熊谷芳郎 第2部 柴田武男

協力 大槻岳

株式会社 教育通信社

聖学院大学教育支援会議

発行 聖学院大学アドミッションセンター

362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号

TEL 048-725-6191

<http://www.seigakuin.jp>



Love God and Serve His People

聖学院大学

アドミッションセンター

362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号

TEL 048-725-6191

<http://www.seigakuin.jp>